

インドネシア共和国国立ゴロンタロ大学・ゴロンタロ州ボネボランゴ県御一行が愛媛を訪れました【4月7日（土）～12日（木）】

平成30年4月7日（土）～12日（木）、インドネシア共和国ゴロンタロ州から、シヤムス・カマル・バドゥ氏（ゴロンタロ大学長）、ハミム・ポウ氏（ボネボランゴ県知事）をはじめ35人が、松山市および愛媛大学と交流深化を図る目的で来県しました。本訪問団は、ボネボランゴ県から県関係者6人、およびゴロンタロ大学から教職員と学生24人、ティロンカピラ第一中学校の生徒5人から構成され、松山春まつりの大名行列やステージイベントに参加しました。

10日夕方には、本協会の主催で歓迎夕食会を開催しました。2年連続インドネシア全国学生文化コンテストで、ベストパフォーマンス賞を受賞したパフォーマーの中学生による、インドネシアの古典楽器を使った音楽界の新しいジャンル、クレアシ・バル（Kreasi Baru）の演奏が始まると、会場全体が異国情緒に包まれ、迫真のパフォーマンスに一同が圧倒されました。歓迎会には協会会員の企業関係者やインドネシア人留学生も多数参加し、ゴロンタロからのお客様を囲んで、終始賑やかな夕食会となりました。



▲シヤムス・カマル・バドゥ学長挨拶



▲賑わう夕食会会場



▲中学生によるクレアシ・バル披露



▲大学生のパフォーマンス



▲日本舞踊パフォーマンス



▲杉森理事による閉会挨拶

インドネシア夏祭り 2018 を開催しました【8月19日（日）】

平成30年8月19日（日）、在日インドネシア留学生協会（略称PPI）愛媛支部が主催する「インドネシア夏祭り 2018」が愛媛大学城北キャンパスにて開催され、多くの来場者にインドネシアの文化を紹介しました。

8月17日のインドネシア独立記念日に合わせて開催された本イベントは、今年で3回目を迎え、インドネシア国旗色の赤と白をテーマに飾り付けられた華やかな会場に、学内外から多くの来場者が訪れました。開会式で、民族衣装を身にまとった子どもたちが、インドネシア南スラウェシの伝統舞踊「ボサラ」を披露すると、会場は一気に和やかな雰囲気に包まれました。

会場では、定番のミーゴレン（インドネシア風焼きそば）をはじめ、インドネシア留学生とその家族らが腕によりをかけた家庭料理が販売されたほか、ファッションを体験できるコーナーも設けられ、来場者はインドネシアの様々な文化を気軽に楽しんでいました。日本のパン食い競争に似たせんべい食いゲームやバキアックと呼ばれるムカデ競争などのインドネシア伝統ゲームの数々が紹介され、観衆の大歓声とともに、休日のキャンパスにひとしきり活気が溢れました。



▲開会式にて



▲定番のミーゴレン



▲会場全体でダンス

インドネシアスポーツ大会 2018 を開催しました【10月8日（月・祝）】

平成 30 年 10 月 8 日（月・祝）の体育の日に、愛媛大学城北キャンパス体育館で、インドネシアスポーツ大会（PORMAS-PPI Ehime）を開催し、インドネシア人留学生のほか、県内からのインドネシア人研修生、愛媛大学教職員、企業関係者ら約 200 人が参加しました。

本イベントは、PPI-Ehime（在日インドネシア留学生協会愛媛支部）が主催するもので、スポーツを通じて、インドネシア人のコミュニティと地域コミュニティとの絆を深めることを目的とし、昨年に続き 7 回目の開催となりました。

開会式には、在大阪インドネシア共和国総領事館から Mirza Nurhidayat 総領事らがかけつけ開会挨拶を行った後、日本・インドネシア国交樹立 60 周年を記念して、インドネシアの伝統楽器アングルンを用いたパフォーマンスが披露されました。

競技は、フットサル、バドミントン、卓球の 3 種目で、参加者が白熱した試合を繰り広げました。激しい試合が終わると笑顔で握手をかわすなど、言葉や国境を越えて互いの健闘を称え合いました。また昼食時には、留学生やその家族らが手作りしたインドネシア料理が販売され、秋晴れの空の下、昼食を囲んで交流の輪が広がりました。



▲Mirza 総領事による開会挨拶



▲伝統楽器アングルン演奏



▲西ジャワ伝統のクジャク踊り



▲留学生による料理販売



▲バドミントン競技



▲フットサル競技

在マカッサル領事事務所の宮川勝利所長による講演会を開催しました【12月20日(木)】

平成30年12月20日(木)、在マカッサル領事事務所の宮川勝利所長による講演会を愛媛・インドネシア友好協会及び愛媛大学国際連携推進機構の主催で、愛媛大学において開催しました。

今年は、日本とインドネシアの国交樹立60周年にあたり、宮川所長は「日本・インドネシア関係」の題で、両国間の関係の歴史について講演しました。講演会には、協会会員、学生、一般の方等、約30人の参加がありました。講演後の質疑応答では、インドネシアにおける親日度、流通網整備、教育、ゴミ処理、金融情勢のほか、外交官の仕事についても質問が出され、予定時間をはるかに超えて活発な議論が交わされました。

講演会に先立ち、宮川所長は大橋裕一会長を表敬訪問しました。会談では、杉森正敏理事・事務局長、二神秀和理事らも交え、東部インドネシア地域における産学間連携や学術交流について、意見交換を行いました。



▲講演の様子



▲質疑応答の様子



▲大橋会長、杉森理事・事務局長、二神理事らとの懇談後の集合写真

愛媛とインドネシア友好の桜植樹事業を実施しました

2018年、日本とインドネシアは国交樹立60周年を迎えました。両国政府は「日本・インドネシア国交樹立60周年記念事業」と称して様々な交流イベントを開催し、両国の地方間の交流を促進してきました。この流れを受け、愛媛・インドネシア友好協会は、インドネシア訪問団を結成し、桜の苗木をインドネシアへ送り、南スラウェシ州で苗木の贈呈・記念植樹式に参列いたしました。本事業に際しまして、協賛および協力いただきました会員の皆様には、心より厚く御礼申し上げます。

<インドネシア訪問団 報告>

訪問期間：平成30年11月25日(日)～12月1日(土)

訪問団メンバー：愛媛・インドネシア友好協会役員および会員、
日本さくら交流協会、愛媛トヨタ自動車株式会社、
愛媛県、愛媛大学 含む計24名

11月25日(日)、夕方に松山空港内において、訪問団の結団式及び出発式を開催し、東京経由でインドネシアへ向けて出発した。

11月26日(月)、昼過ぎにマカッサルに到着。夕方、南スラウェシ州知事公邸において州主催の桜苗木の贈呈・植樹式及び歓迎レセプションに参加した。贈呈・植樹式では、南スラウェシ州桜植樹プロジェクト実行委員会のアグネス・ランピセラ委員長（ハサヌディン大学農学部教授）が、プロジェクトの趣旨とこれまでの経緯を説明した。また、南スラウェシ州のヌルディン・アブドゥラ州知事や在マカッサル日本領事事務所の宮川勝利所長から歓迎の挨拶があった。続いて、本協会の森一哉副会長（日本さくら交流協会理事長）から、州ヌルディン州知事、宮川所長、ハサヌディン大学ドゥウィア・アリス・ティナ学長に対し、苗木の贈呈が行われた。そして、公邸の敷地内に5本の桜苗木が植樹された。]

なお、今回贈呈した桜苗木は暖地でも育ちやすい河津桜300本であり、冷涼な気候の北トラジャ県内（後述）で1-2年ほど生育された後、300本のうちの150本がゴワ県マリノ高原に、50本がハサヌディン大学農場に移植される予定になっている。



▲南スラウェシ州知事主催歓迎レセプションの様子



▲森副会長のスピーチ

11月27日(火)、Four Points by Sheraton ホテルで開催された、在マカッサル領事事務所主催天皇誕生日レセプションに参列した。ヌルディン州知事、州内各県知事・市長、日本人会、産業界など約300人の参加者が一同に会し、併せて、ヌルディン州知事の日本国外務大臣表彰式も行われた。また、会場内には愛媛県と愛媛大学の紹介ブースが設けられた。



▲在マカッサル領事事務所主催天皇誕生日レセプションの様子

11月28日(水)、飛行機とバスでマカッサルからパロポ空港経由で北トラジャ県へ移動。北トラジャ県内のトアルコ・ジャヤ社(キー・コーヒー現地法人)農園において桜苗木の贈呈・植樹式に参加した。植樹式では、南スラウェシ州知事公邸内に植えられた5本を除くすべての桜苗木の植樹が行われた。なお、苗木への水やり等今後1-2年間の生育管理をトアルコ・ジャヤ社の植栽専門家に行ってもらえることになっている。

その後、一行は県内の観光地 Kete Kesu 村を視察した。夜、宿泊先ホテルにおいて、北トラジャ県知事主催の歓迎レ

セプションに参加し、本協会の杉森理事が会長代理として挨拶を行った。

11月29日(木)、北トラジャ県からバスと飛行機でマカッサルへ戻り、夕方、南スラウェシ州知事主催の送別夕食会に参加した。

11月30日(金)、午前中マカッサル市の沖合にあるサマロナ島を訪れ、島内を視察した。午後、マカッサル空港からジャカルタ空港へ移動。

12月1日(土)、ジャカルタから東京経由で松山へ帰着。訪問団を解散した。



▲北トラジャ県植樹式の様子



▲北トラジャ県主催の歓迎会にて



▲訪問団の集合写真

南スラウェシ州御一行の歓迎レセプションを開催しました【12月13日（木）】

平成30年12月13日(木)、南スラウェシ州知事に新たに就任したヌルディン・アブドゥラ氏、北ルウ県知事、ジェネポント県知事、パロポ市長をはじめとするインドネシア・南スラウェシ州訪問団25名が来県し、愛媛大学城北キャンパスにて、愛媛・インドネシア友好協会が主催する歓迎レセプションに参加しました。

愛媛・インドネシア友好協会の大橋会長は、開会挨拶にて、ヌルディン氏の南スラウェシ州知事への就任のお祝いをお祝い述べ、国交樹立60周年記念として実施した桜植樹事業で愛媛訪問団が南スラウェシ州を訪問した際の温かいおもてなしに対し、感謝の意を表しました。続いて、来賓スピーチに立ったヌルディン州知事は、贈呈された桜の苗木が順調に育っていることを写真で報告し、愛媛県と南スラウェシ州間の関係強化につとめていきたいと述べられました。

歓迎レセプションには、中村時広愛媛県知事をはじめ、桜植樹訪問団メンバー、本協会会員の企業関係者やインドネシア人留学生など多数が参加し、御一行を含め、総勢70名が食事を楽しみながら、交流を深めました。

今回の愛媛県訪問で、御一行は、愛媛県農林研究所果樹研修センター、松山南クリーンセンター、愛媛トヨタ自動車(株)テクノオペレーションセンター、道の駅うわじま・きさいや広場および水産関係の宇和島プロジェクトなどを視察しました。



▲大橋会長とヌルディン州知事



▲中村時広知事による挨拶



▲集合写真

インドネシア語講座（初級・中級コース）を開催しました

本年度は、11月から2月にわたり、インドネシア語講座初級コース（全4回）と中級コース（全4回）の2コースを開講し、本協会の会員様に加え、インドネシアと交流のある愛媛大学教職員および学生ら延べ25名の方が受講しました。

初開講となった中級コースでは、インドネシア語の学習経験のある方が多数参加され、応用文法の学習やより実践的な会話練習を行いました。最終授業のあと、講師のエルニ・ジョハン先生（愛媛大学研究員）とインドネシア人留学生らが準備したインドネシア料理を囲んで、交流の場が設けられました。受講者らは、本講座で習得したインドネシア語を交えて、留学生らとの話に花を咲かせていました。



▲授業風景



▲懇親会の様子



▲インドネシア風焼きそば



▲インドネシアのお菓子